



(日本語参考訳)

## 日伯戦略的経済パートナーシップ賢人会議

### 優先分野に関する進捗報告

#### 1. 石油・ガス

##### 1. 1 プレソルト油田開発に関するロジスティクス

プレソルト油田開発のための洋上生産設備への輸送解決策として、日本を代表する 10 の海運・造船関連企業・機関が参画する技術研究組合 J-DeEP が、ペトロブラスに対してオールジャパン体制で「ロジスティクスハブ構想」を提案中。

##### 1. 2 ブラジルの造船業

ブラジルの造船業は、深海油田開発のために設備投資される造船業への日本から投資・技術協力で再興中。日本企業による造船業への投資（IHI・JGC・JMU がアトランティコスル造船、KHI がエンセアード社、MHI・今治造船・名村造船・大島造船・三菱商事がエコビクス・エンジェビクス社）は、ブラジルでの造船産業育成経験のある日本企業がブラジル造船業の質を向上することで、win-win の関係を構築中。

##### 1. 3 FPSO 備船事業

2013 年 12 月、三井物産は、三井海洋開発、商船三井、丸紅とともにペトロブラスが進めるプレソルト油田向け FPSO 備船事業を推進することで合意。本案件含め三井物産のペトロブラス向け FPSO 備船事業は 9 隻目。今後も同事業を通じてブラジルの油田開発に貢献していく。

##### 1. 4 金融支援

JBIC・日本の民間金融機関は、①ペトロブラスのプレソルト油田開発向け FPSO 長期備船サービス事業（計 5 隻）に対し総額 50 億ドル超を供与、②ペトロブラス向け日本企業製機器購入支援のため総額 15 億ドルのクレジットラインを設定し、日本企業によるプレソルト油田開発等の石油・ガス事業へのロジスティクスや機器・技術提供につき支援中。

## 2. 自動車産業と再生可能エネルギー

### 2. 1 ブラジルの自動車産業の成長と日本の自動車産業との協力

ブラジルの自動車産業は引続き成長中であり、日本の自動車産業によるブラジルへの投資は引続き拡大中。昨年 8 月以降の日本企業による新規投資には以下が含まれる。

- ・ 東洋紡/自動車部品用高機能樹脂工場建設決定(10 億円)【2013 年 8 月】
- ・ ホンダ/新工場(年産 12 万台)設立決定(430 億円)【2013 年 8 月】
- ・ ブリジストン/タイヤ生産増強(日産 7,300 本から 10,100 本)決定(65 億円)【2013 年 12 月】
- ・ 日産自動車/自動車工場(年産車両 20 万台、エンジン 20 万基)開設(1,200 億円)【2014 年 4 月】
- ・ ヨロズ (三井物産との JV) /自動車用サスペンション関連部品工場建設決定(70 億円)【2014 年稼働開始予定】  
(トヨタ/エンジン工場(年産 20 万基)2016 年稼働開始に向け準備中)(420 億円)【2012 年 8 月】)

日本の自動車産業はブラジル自動車産業とともに成長していく方針であるが、イノベーション、税制改革、インフラ整備、人材育成、裾野産業育成、輸出促進策を通じたブラジル政府によるブラジルの自動車産業の国際競争力強化は更なる発展には不可欠。

### 2. 2 再生可能エネルギー

JBIC・日本の民間金融機関は、BNDES (国立経済社会開発銀行) やペトロブラス向けに総額 16 億ドルの GREEN ファイナンスを供与し、ブラジルの風力発電やバイオマス発電を含む再生可能エネルギー事業等を支援中。また、裾野産業育成を含む日本の中堅・中小企業のブラジル進出支援につき JBIC と BNDES との協調で推進予定。

2014 年 1 月、三井物産はジラウ水力発電事業の 20%の権益を取得。これは日本企業として初めての同国電力事業への参画となり、完成後はブラジルで 4 番目の規模の水力発電事業となる。本事業はブラジル政府による成長促進プログラムとして BNDES からの融資を受けており、国連クリーン開発メカニズムに正式に認可されている世界最大の案件である。

### 3. インフラ・ロジスティクス投資

#### 3. 1 ブラジルにおけるロジスティクス・コスト削減

本件は官民の協力が必要となり、日本は既に複合的ロジスティクス事業の拡張に関与している。

#### 3. 2 複合的ロジスティクス拡張

2014年4月、三井物産はVale社が運営する一般貨物輸送事業会社VLIの株式20%を取得。VLI社は1万km超の鉄道網、港湾ターミナルを活用し穀物・肥料・鉄鋼製品などの一般貨物輸送サービスを提供しており、貨物取扱量の倍増をめざし、今後5年間で90億レアルの投資を行う計画。VLI事業を通じ物流インフラの整備・効率化に加え、輸送最適化による物流コストや環境負荷の低減を図っていく。

#### 3. 3 都市交通改善

国土交通省並びにリオデジャネイロ州交通局は、安全且つ信頼の於ける旅客輸送の為のリオデジャネイロ州の鉄道ネットワークの改善に向け協力することを検討する。

### 4. 技術・イノベーション

#### 4. 1 伯自然災害対策への宇宙技術利用研究

2013年4月、日伯宇宙当局間会合にて、日本の衛星利用技術を活用することが両国の相互利益に資することを確認。ブラジルにおける自然災害の主要因は降雨であるが、日本政府の先端的な衛星を中心に、衛星の観測データと地上センサーから得られるデータを融合し、広域を対象に統一的な手法で精度の高い雨量予測を実現することは減災の観点から重要。将来的な産官学連携による実用化を念頭に、二国間の共同研究を立ち上げるべく両国政府事務レベルで検討中。

#### 4. 2 様々な分野での宇宙技術提案

IHIはFIRJAN（リオデジャネイロ州工業連盟）と共催で技術フォーラムを毎年開催し、造船・海洋、エネルギー、新交通システム、資源探査、衛星を使った農業情報サービスなどの技術を紹介（人工衛星による農業情報サービスについては、農業関連データを集積することで、アプリケーション開発を進めている）。アマゾンの違法伐採取締りに貢献した陸域観測衛星「だいち」の後継機「だいち2号」が2014年5月24日成功裏に打ち上げられた。その他宇宙ステーション日本実験モジュールを使った小型衛星の軌道投入等。

## 5. 人材育成

### 5. 1 「国境なき科学計画」

ブラジル政府が推進する「国境なき科学計画」に対し、日本の産業界は協力中（インターンシップを通じた技術開発分野におけるリーダー育成）。

### 5. 2 造船分野における人材育成

造船分野における技術労働者増加を目的に、IHI は MHI や KHI とともに JICA と SENAI (伯全国工業職業訓練機関) の実施する人材育成プログラムに協力中。IHI はペルナンブコ連邦大学への日本人エンジニアの講師派遣による海洋造船講座開設への支援協力及び同大学造船学科の留学生のインターン受入れを進めている。

## 6. 第三国協力

### モザンビークでの熱帯農業支援

日本政府はモザンビーク政府とともに、持続可能な農業開発を通じた地域住民の生計向上を目指した「プロサバンナ計画」を推進中。ナカラ回廊地域は農業開発に高いポテンシャルを有する。「プロサバンナ計画」は小農の貧困削減に貢献する。EMBRAPA (伯農牧研究公社) のブラジルでのセラード農業開発 (サバンナ型地域) の知見は大変貴重となる。

ナカラ回廊農業地域開発に沿ったナカラ回廊鉄道は、Vale 社のモザンビークでの複合的鉱物プロジェクトの一部であり、石炭とともに農産品や旅客も輸送する計画。

## 7. 日伯 EPA

CNI (伯全国工業連盟) と経団連は二国間 EPA 締結の可能性を追求。

先行しているメルコスール・EU 間の自由貿易協定交渉が当初見通しより遅れている状況下、具体的協議開始にはしばらく時間が掛かる見通しであるが、引続き日伯二国間 EPA 交渉の早期開始に向けた検討を続行。